

令和7年度 総合的な学習の時間 学習指導研究委員会のまとめ

一 テーマ

問いや願いの解決に向けて、地域の人・もの・ことに関わり、物事の本質に迫りながら、
自己の生き方につなげて考える総合的な学習の時間のあり方

二 テーマ設定の理由

学習指導要領には、「何を理解しているか、何ができるか」という『知識及び能力』の観点、「理解していること・できることをどう使うか」という『思考力・判断力・表現力等』の観点、「どのように世界と関わりよりよい人生を送るか」という『学びに向かう力、人間性等』の観点の三つの柱がある。子どもたちの「願い」の実現に向けた学習を展開し、地域の「ひと・もの・こと」に自ら関わることで、上記の資質・能力を育成していくことができるよう、本テーマを設定した。

三 研究の経過

本年度は、教育課程研究協議会が実施されないこともあり、教員が主体に研究に取り組む姿勢が求められた年である。本委員会では、各委員が自校で行っている総合的な学習の時間の実践を持ち寄り、共有する場を設定した。実践を通して得られた成果や課題を交流することで、総合的な学習の時間に関する理解を深めるとともに、指導の工夫や視点を広げることをねらいとした。

回	月日	内容（会場）
1	5月1日（木）	総委員会（会館）
2	7月30日（水）	実践報告会①（北小）※実践報告：北小・北御牧小・東塩田小
3	9月1日（月）	実践報告会②（北小）※実践報告：第一中・柵津小・城下小
4	9月3日（水）	県教委からの伝達講習（オンラインにて）
5	10月31日（金）	実践報告会③（北小）※本原小・豊殿小・神川小
6	11月11日（火）	授業公開（豊殿小学校）
7	11月25日（火）	総委員会（会館）
8	12月24日（水）	各校のレポート提出（メールにて）

四 研究の内容（各校の実践から）

上記の研究テーマに沿って各校で実践を行ってきた。学習の始まりの部分でどのように「材」や「人」と出会わせ、学びを展開していくか。また地域素材をどのように活かしたり、他教科とどのように関わらせるかを大切にしてきた。以下、委員による実践事例を紹介する。

- 【実践1】中庭サービスエリア～中庭にもっと人が来るように考えよう～
- 【実践2】『バス停ピカピカ大作戦』～自らの学びに夢中になる子ども～
- 【実践3】伝えよう、塩田の魅力～総合的な学習の時間の活動～
- 【実践4】中3総合「地域に返す」実践報告
- 【実践5】総合的な学習の時間の取り組み
- 【実践6】うえだみどり大根 PR 大作戦2
- 【実践7】本原田んぼ大作戦！～夢の大福プロジェクト～
- 【実践8】ひみつきちをつくろう！
- 【実践9】『かいこについて調べよう』（1学期）『かいこを育てよう』（2学期）

中庭サービスエリア～中庭にもっと人が来るように考えよう～

上田市立北小学校 3学年

1、テーマ設定

3年生は、1学期に社会の単元に絡め、「学校探検」を行い、子どもたちのお気に入りの場所を調べた。すると、中庭や扇池でよく遊んでいることが分かったが、「自分たちは中庭でよく遊ぶが、他の学年はほとんど来ていない」という意見が出され注目をあびた。

そこで、本当に中庭がみんなの遊び場になっていないのかを確かめるため、算数「表とグラフ」と関連付け、全校児童を対象に「好きな外の遊び場」についてアンケート調査を行った。その結果、「中庭」や「扇池」で遊ぶ児童が少ないことが明らかになった。

活動場所を検討する中で、理科「日向とひかげ」の学習を基に、中庭が夏でも涼しいという良さに着目し、活動の場を中庭に決定した。子どもたちは活動を「中庭サービスエリア」と名付け、暑い日でも遊べる中庭づくりを目指して、活動内容を考えていった。

2、活動内容

(1) どんな中庭にしたら遊びにきてもらえるかアイデアを出す

暑い日に日陰になった方が遊びやすいことや、休憩スペースを作りたい等の意見から次のアイデアが出た。そして、自分が作りたいものごとにチームを作った。

①家②風鈴③花壇④池にかける橋⑤ハンモック⑥勉強机やイス⑦砂時計⑧看板

(2) 実際に作ってみる

作るものを決めた後は、各チームが計画を立て、協力しながら制作に取り組んだ。取り組む中で、材料が確保できなかつたり、途中で壊れてしまったりと計画段階では想定していなかった難しさに直面することもあった。その時はチーム内や学級全体で相談し、試行錯誤を重ねながら完成を目指した。



(3) 全校児童に案内する

11月に中庭サービスエリアが完成し、しばらく様子を見ていたが、思ったほど中庭に遊びに来る児童が増えていないことに子どもたちは気付いた。そこで、国語科の「ポスターのよさを考える」単元を参考に、自分たちでポスターを作成し、放送でも呼びかけを行った。その結果、以前よりも中庭で遊ぶ児童が増えたことを実感することができた。

(4) 干し柿チャレンジ

中庭に落ちている柿を拾ってきた子どもがいた。中庭には大きな柿の木があって、「これ食べれるの？」と気にしていた。クラスの中に、「干し柿にすれば食べられる」ことを知っている子どもがいたことと、国語「すがたをかえる大豆」の学習から、干し柿を作ってみることにした。干し柿の途中経過を見る度に、「先生しばんでいるけど大丈夫？」「あれ食べれるの？」と声をかけてくる子どももいて、完成が楽しみである。

3、成果と課題

今回は子どもたちの身近にある中庭を「材」とし活動を進めてきた。自分たちで課題に気づき、他教科とのつながりを考えながら活動ができた点は成果として挙げられるが、人との関りが学級内で終わったしまったことに課題が残る。活動の中で、地域の大工さんに家づくりの工夫を聞いてみたり、中庭の柿を使った干し柿づくりを地域の方に教えてもらったりと、関りを広げることができたろう。今後は、そうしたつながりを考えた授業展開を目指したい。

『バス停ピカピカ大作戦』～自らの学びに夢中になる子ども～

東御市立北御牧小学校 4 学年

1. 活動のきっかけと子どもたちの願い

4月スタート、子どもたちにとって身近なもので、必要感があり、地域の方とかかわりが持てる対象を探していた。4月の下校指導でバス停に行く機会があり、子どもたちはバス停の汚れに目を向けるようになってきた。そこで、3年生のときの道徳で「バス停にマスクとかのごみが多いから掃除をしたい。」という感想を持った児童の意見を伝えてみると「4松でバス停をきれいにしよう。」という話になった。実際のごみや汚れを確認し、掃除に取り組み始めた子どもたちは、想像以上の汚れに対する驚きと共に「みんなが気持ちよく使えるバス停にしたい。」という願いを持つようになっていった。

2. 活動の様子

○繰り返しバス停とかかわる時間を取ることで、活動の見通しが持てるようになった子どもたち

⇒活動のスタートは掃除。繰り返しバス停掃除を続けることによって、「みんなが気持ちよく使えるバス停」にするためには、掃除だけではなく「修理」も必要だということに気づいていった。そこで、自分たちでできる活動と保護者を含めた地域の方にお手伝いいただく活動と分けることができたので、どんな順番でバス停の活動を進めていくのかの見通しが持てた。

○人とかかわることにより学びが深まる子どもたち

⇒使われていない排水用の枡がゴミ捨て場になっていたことから、花を植えて花壇にしたならゴミがなくなると考えた子どもたち。計画を立てる中で、お花の苗を扱っている保護者の方からたくさんの苗をいただくことができた。「気持ちよく使えるバス停にしたい」という願い実現のために、苗の組み合わせ、苗の高さを意識した配置など班ごとにいろいろなアイデアを出し合って花植えをした。



⇒バス停内のペンキ塗りは、地域の方（児童のおじいちゃん）に教えていただきながら活動することができた。学校にはない道具や材料を使って、ペンキ塗りの下処理をする様子を見せていただき、「すごい！」と素直に感動する姿があった。具体的なアドバイスを直接受け、目の前で自分たちの活動が形になっていく喜びを感じることができるので、子どもたちは時間いっぱい夢中になってペンキ塗りに取り組んでいた。

○国語・社会の学習で必要感を持って学ぶ子どもたち

社会「ごみ処理と利用」の単元で学んだこと・見学したことをもとに東御市のごみの出し方カレンダーをよく見て、バス停で拾ったごみの分別を行った。後日、ストックヤードからすべてのごみ袋が回収され、自分たちのごみの分別方法が正しかったことを確認できた。



『バス停ピカピカ大作戦』の活動には、保護者の方、市役所の方、地域の方、学校職員などたくさんの方の協力があった。お世話になった方々に感謝の気持ちを伝えるお手紙を書くことになり、国語「お礼の気持ちを伝えよう」の単元と関連させて学習した。

3. 成果と課題

探究のプロセスを意識した授業を進める中で、まず教師が子どもの願いに寄り添い、子どもが抱えている背景まで含めて「その子の姿」としてしっかりとらえてきた。また、子どもが夢中になって活動を進めるには、教師による場づくりを意識してきた。①教室内に活動の足跡を残し、子どもたち自身の自らの育ちの実感と活動の見通しを持つ。②社会科や国語との関係づけ、必要感を持って学習に取り組む。③「人」とのつながり、「社会」とつながり。④子どもの活動の半歩先を見据えて「待つ」

支援。⑤調べ活動の時間の確保と多数決に頼らない話し合いなど。

「本物」との出会いが子どもの問いや願いを生むことから、教師自身が地域の素材研究・教材研究を惜しまずに行うことを大切にしていきたい。

伝えよう、塩田の魅力～総合的な学習の時間の活動～

上田市立東塩田小 3学年

1. 活動のねらい

この学習のねらいは、地域についての理解を深め、自分たちの住む塩田地域に愛着をもつことにある。特に塩田地域には、歴史的な建物や自然、日本遺産に登録されたお寺など、全国的にも価値のある文化や風景が多く残っている。そうした魅力にふれ、調べ、体験することで、地域のよさを実感し、「もっと知りたい」「伝えたい」という気持ちを育てることを目指した。

2. 年間の活動内容

(1) 調べ学習

活動のきっかけは「塩田カルタ」との出会いだった。塩田地域の名所や歴史、伝説が読み札になっており、子どもたちは何度も遊びながら自然と地域のことに興味をもつようになった。カルタを作った方にお話を聞く機会もあり、札に込められた思いや、地域の人々が大切にしてきたものについて知ることができた。中でも、学校の敷地内にある石が、実は地域の歴史を語る大切な「お宝」であることを知ったときは、子どもたちから驚きの声が上がった。身近な場所にも、たくさんの発見があることに気づいた瞬間だった。

(2) グループでの探究

次に子どもたちの興味に応じて「自然」「言い伝え」「日本遺産」「生島足島神社」の4つのテーマに分かれて学習を進めた。グループごとに何を調べたいかなどを話し合い、学習の方向性を決めた。調べていく中で、教科書や資料だけでは分からないことがたくさん出てきた。「実際に現地に行ってみよう」「地域の人に直接話を聞いてみたい」という声は自然と上がったため、自分たちで地域の方に連絡を取ったり、見学をお願いをしたりして、学習を進めていった。自分たちの足で歩き、目で見、耳で聞いて学ぶことで理解が深まり、「自分たちが知ったことを、全校のみんなにも伝えたい」「塩田の魅力をもっと広めたい」という願いが子どもたちの中に生まれていった。



(3) 中間発表

子どもの願いを受け、3学期の始業式で各グループが2分間のスライド発表を行う。

(4) 今後の見通し

今後は、さらに深めたい内容や新たに生まれた疑問について調べを進め、年度末の参観日に各グループ10分間の発表を行う予定である。これまでの学びをふり返りながら、地域への思いや気づいたことを自分の言葉で伝えることを目指している。また発表だけでなく、文章でもまとめるなど、形に残すことで、学びをより確かなものにしていきたい。

3. 振り返り

活動する中で子どもたちの中から自然と疑問や興味が生まれ、自分たちで学びを進めていく姿が見られるようになった。グループ活動では、1グループ10人でリーダーと副リーダーを決めて進めた。リーダーを中心に「みんなで協力しよう」「役割分担をしよう」と声をかけ合いながら、少しずつチームとしてのまとまりができていった。自分たちで考えて動く姿や、友達を思いやる言葉がけが増え、子どもたちの成長を感じることができた。また自分の興味に合わせてグループを選び、主体的に学ぶことで、子どもたちは「学ぶことの楽しさ」や「地域とつながることの大切さ」を実感していたように思う。塩田の魅力を知り、それを伝えたいという気持ちが育ったことは、この学習の大きな成果だった。

3年総合「地域に返す」実践報告

上田市立第一中学校 3学年

1. 目的「地域に触れ」「地域と関わり」「地域を見つめ」てきた生徒たちが、自分たちに何ができるかを考え、仲間や地域の方と協働し、行動をおこそうとする

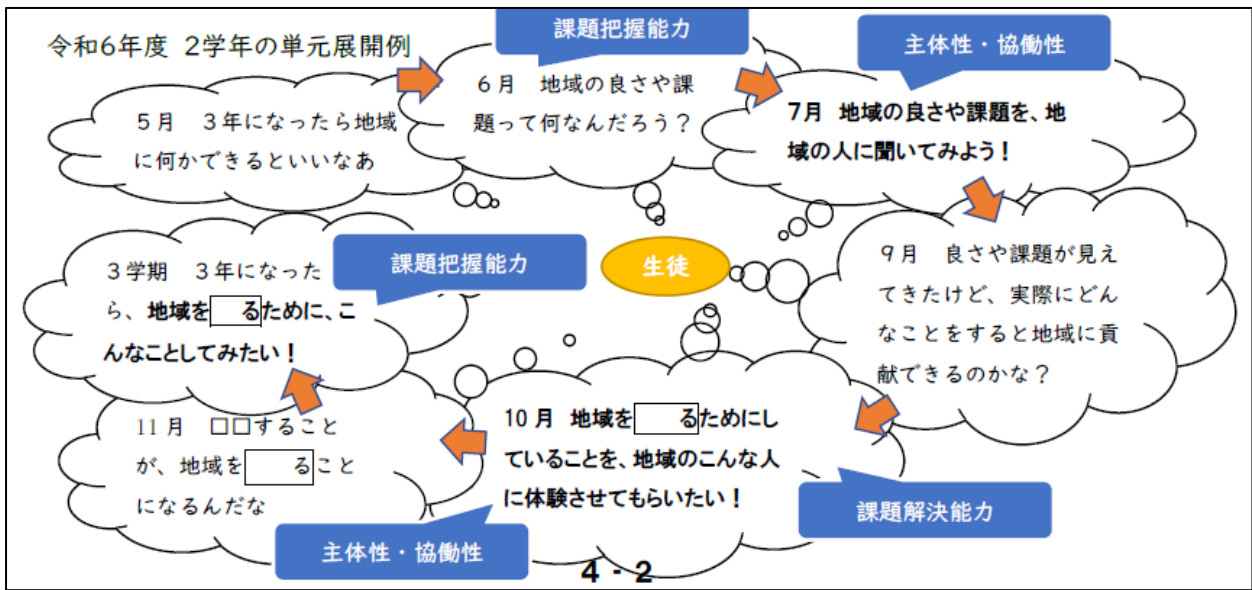
※今までの一中の総合的な学習の時間…

- ・年に2回、総合的な学習の日を設置
- ・総合の時間…“総合の日”があるから、そのための準備をしよう

周辺のゴミ拾い…草取り…
地域の文化の体験…
その日に始まり、その日に終わる
総合の日のための総合。
嫌だなあ。

何とか学級総合にできないか？百歩ゆずって、ただ活動をするだけの総合の日ではなく、もっと探究的な…サイクル的な…そういう活動にしたいなあ。

そこで2年生は…「地域に関わり、地域を知る」



そして三年生になったら…

2. 学習内容

4月 修学旅行 「外から地域を見つめてみよう」

- ・京都、奈良と自分たちの地域を比べてみよう
- ・外から見た自分たちの地域の良さや課題は？

修学旅行も総合にしちゃえ

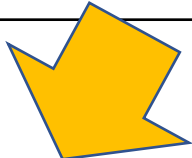
5月 「3年間の学びを生かして、地域に何ができそうか考えよう」※

- ・地域の方との関わりの中で知った課題を解決するために何ができそうか
- ・地域の方との関りで学んだことを生かして何ができそうか

1. 地域に何を学ぶのか
2. 地域に何を学ぶのか
3. 地域に何を学ぶのか
4. 地域に何を学ぶのか
5. 地域に何を学ぶのか
6. 地域に何を学ぶのか
7. 地域に何を学ぶのか
8. 地域に何を学ぶのか
9. 地域に何を学ぶのか
10. 地域に何を学ぶのか
11. 地域に何を学ぶのか
12. 地域に何を学ぶのか
13. 地域に何を学ぶのか
14. 地域に何を学ぶのか
15. 地域に何を学ぶのか
16. 地域に何を学ぶのか
17. 地域に何を学ぶのか
18. 地域に何を学ぶのか
19. 地域に何を学ぶのか
20. 地域に何を学ぶのか
21. 地域に何を学ぶのか
22. 地域に何を学ぶのか
23. 地域に何を学ぶのか
24. 地域に何を学ぶのか
25. 地域に何を学ぶのか
26. 地域に何を学ぶのか
27. 地域に何を学ぶのか
28. 地域に何を学ぶのか
29. 地域に何を学ぶのか
30. 地域に何を学ぶのか
31. 地域に何を学ぶのか
32. 地域に何を学ぶのか
33. 地域に何を学ぶのか
34. 地域に何を学ぶのか
35. 地域に何を学ぶのか
36. 地域に何を学ぶのか
37. 地域に何を学ぶのか
38. 地域に何を学ぶのか
39. 地域に何を学ぶのか
40. 地域に何を学ぶのか
41. 地域に何を学ぶのか
42. 地域に何を学ぶのか
43. 地域に何を学ぶのか
44. 地域に何を学ぶのか
45. 地域に何を学ぶのか
46. 地域に何を学ぶのか
47. 地域に何を学ぶのか
48. 地域に何を学ぶのか
49. 地域に何を学ぶのか
50. 地域に何を学ぶのか

1. 地域に何を学ぶのか
2. 地域に何を学ぶのか
3. 地域に何を学ぶのか
4. 地域に何を学ぶのか
5. 地域に何を学ぶのか
6. 地域に何を学ぶのか
7. 地域に何を学ぶのか
8. 地域に何を学ぶのか
9. 地域に何を学ぶのか
10. 地域に何を学ぶのか
11. 地域に何を学ぶのか
12. 地域に何を学ぶのか
13. 地域に何を学ぶのか
14. 地域に何を学ぶのか
15. 地域に何を学ぶのか
16. 地域に何を学ぶのか
17. 地域に何を学ぶのか
18. 地域に何を学ぶのか
19. 地域に何を学ぶのか
20. 地域に何を学ぶのか
21. 地域に何を学ぶのか
22. 地域に何を学ぶのか
23. 地域に何を学ぶのか
24. 地域に何を学ぶのか
25. 地域に何を学ぶのか
26. 地域に何を学ぶのか
27. 地域に何を学ぶのか
28. 地域に何を学ぶのか
29. 地域に何を学ぶのか
30. 地域に何を学ぶのか
31. 地域に何を学ぶのか
32. 地域に何を学ぶのか
33. 地域に何を学ぶのか
34. 地域に何を学ぶのか
35. 地域に何を学ぶのか
36. 地域に何を学ぶのか
37. 地域に何を学ぶのか
38. 地域に何を学ぶのか
39. 地域に何を学ぶのか
40. 地域に何を学ぶのか
41. 地域に何を学ぶのか
42. 地域に何を学ぶのか
43. 地域に何を学ぶのか
44. 地域に何を学ぶのか
45. 地域に何を学ぶのか
46. 地域に何を学ぶのか
47. 地域に何を学ぶのか
48. 地域に何を学ぶのか
49. 地域に何を学ぶのか
50. 地域に何を学ぶのか

とにかく思いつくこと、やってみたいことを挙げさせてみた



6月 「自分たちのしようとしていることに、どんな意味があるのか考えよう」

- ・自分たちがしようとしていることを実際にやっている神川まちづくり委員会の活動にふれる
- ・生徒の声をもとに8つのプロジェクトに分ける

7月～11月 「実際に活動してみよう！」

3. 活動例

「地域と交流して笑顔を増やしたい ～笑顔プロジェクト～」

- ↓
- ①発達段階に合わせた遊びの研究&保育園と MEET で会議
- ↓
- ②自分たちで遊びを考案
- ↓
- ③自分たちで実際に遊んでみる
- ↓
- ④遊びを修正
- ↓
- ⑤保育園児を笑顔にしよう！
- ↓
- ⑥保育園児も、中学生も、保育園の先生方も、みんな笑顔になりました。



⑦おまけ
園児たち「中学生のために何かしたい！」
→後日、手作りのお守りを作って手渡しでプレゼント

⑧おまけ
神川まちづくり委員の方のお話
「私たちのしていたことの意味を感じることができた」



中学生のお兄さんお姉さん大好き！

中学生のサイクル的な活動が、地域を巻きこんだサイクルになった！

5年生学年便りから 総合的な学習の時間「高原学習」

東御市立祢津小学校 理科専科

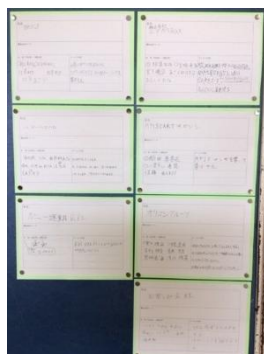
「自然の中で賢く・仲よく・チャレンジ」を合言葉に、初めての高原学習に行ってきました。登山・飯盒すいさん・キャンプファイヤーと盛りだくさんの日程でしたが、子ども達は大きな怪我もなく、協力して充実した2日間を過ごすことができました。

子ども達からは、「係の仕事に責任をもってできた」「初めてのお泊りは不安もあったけれど、友達と楽しく過ごすことができた」などの感想があり、とても良い思い出になったようです。

5年生では、1学期に高原学習を行いました。5年生の総合的な学習の時間では毎年高原学習を行っています。今年度は5年生だから高原学習に行くのではなく、学級目標や学年目標に結びつけて学習を進めていきました。活動の都度、自分たちで立てた目標に対してどうだったのかを確認していました。高原学習が終わった後も振り返りを行って日常生活に生かしていくためにどのようにしていけばよいのか振り返りをしていました。こなす行事で終わらせるのではなく、成長するための行事として行事を活用していました。



5年 「係活動」



5年生では、総合的な学習の時間で係活動を行っています。係活動では、学級をよりよくしていくために、必要な係を子どもたちが考えて活動しています。ここでも学級目標に結び付けて活動しており、学級目標を達成するために〇〇係が必要というような形で進めています。

授業では毎時間、「この時間で何をするのか」「そのために必要な物などはあるのか」「どこまでできたのか」を振り返っています。探究的型学習にもつながってくるので、総合的な学習の時間を通して学びのサイクルを回していくことで自ら学べる子どもたちを育てていくことを目標にしています。

1. 題材「うえだみどり大根」について

「うえだみどり大根」は、中国の開拓団が種を持ち帰ったことが起源とされている。長さが15cm程で鮮やかな緑色をしたこの大根は、水分が少なく糖度が高いため、かき揚げやスムージーといった多様な調理法をもっている。生産と普及を進めている「うえだみどり大根生産者組合」の皆様にご協力をいただき、本単元を実施した。

2. 主な活動内容

本単元は、今年で2年目となる活動である。昨年度は、大根や組合主催の「大収穫祭」を多くの人に知ってもらう取り組みと、「うえだみどり大根クレープ」を開発して東京で販売する活動を行った。今年度は子どもたちの意見をもとに、①地域のお店とうえだみどり大根を使った料理とスイーツを共同開発をすること、②地域のお店と上田市の名産品を使った「上田クレープ」を共同開発すること、の2つを主な柱に据えて活動を進めた。

(1) 地域のお店への依頼～料理・スイーツの共同開発(令和7年6月～9月)

協力を依頼するお店は子どもたちが選び、「うえだみどり大根アイス」や「うえだみどり大根ラーメン」など、自分たちが「作ってほしい」「食べてみたい」と思う料理やスイーツを自由に考え、手紙に書いて依頼を行った。その結果、16店舗からご協力をいただけることになった。その後、手紙を出したグループごとにお店を訪問し、お店の取材と、料理やスイーツの実現化に向けた具体的な相談をさせていただいた。焼き鳥店を担当した児童は「お店の人がぼくたちの意見を聞いてくれたし、それを『いいね!』と言ってくれたのがすごくうれしかった。」と語っていた。



(2) うえだみどり大根パンフレットづくり(令和7年10月)

お店とコラボメニューを紹介する「うえだみどり大根パンフレット」を制作、配布した。パンフレットの中にはオリジナルのキャラクターやクイズ、料理研究家の方に作っていただいたレシピ等も掲載し、各店舗に自作のスタンプも配布してスタンプラリーを実施した。パンフレットは全校配布の上、協力店、上田駅、観光協会等にも設置した。

(3) 上田の名産品を使った「上田クレープ」の開発(令和7年10月)

みずぎ飴と、美味だれ焼き鳥のお店の方、りんご農園の方と試作を行った。子どもたちが考えた材料と作り方をもとに、お店の方から「プロの目線」で素材の厚さや切り方等の助言を受けながらクレープ案を確定させた。その後、慶應義塾大学の藤田康範教授にプレゼンを行い、1月からの販売に向け商品化を進めた。



(4) お店での料理とスイーツの販売(令和7年11月～)

販売が始まると、子どもたちは嬉しそうにお店へ足を運んで行った。自分たちが考えたメニューがおいしかったこと、家族と一緒に味わい喜んでくれたこと、お店の方がコラボを知らせる看板やPOPを設置して下さっていたこと、他のお客さんが注文をしているのを見たことなど、たくさんの喜びと達成感を表していた。

3. 成果と課題

- ・子どもたちが協力をお願いするお店を選び、開発するメニューを自分達で考案して提案したことにより、取材、パンフレットの制作、宣伝といった一連の活動に対して主体的に取り組む子ども達の姿が見られた。最初に依頼をしたお店に断られてしまった子どもたちもいたが、気持ちを切り替えて、粘り強く活動に取り組むことができた。
- ・販売が始まってから職員が挨拶に行ったところ、「活動に声を掛けてもらって良かった。」「通常メニューより売れていて驚きです。」といったお店の方々の温かいお声を頂いた。お店の訪問だけでなく Padlet で何度も交流したり、繰り返しお店に通ったりすることを通して、子どもたちとお店の方々のつながりも深くなっていった。
- ・お店に訪問をする活動は、引率職員と交通手段の確保、費用面で困難な面もあった。しかし直接顔を合わせて話すことによって、子どもたちはお店の人の温かさを感じ、それをパンフレットの文章に表している姿が見られた。
- ・パンフレットの作成に Canva を、お店の方との連絡ツールとして Padlet を使用したが、どうしても個々の技能

差や共同編集の難しさが生じてしまったため、ICT 支援員の先生に支援をお願いした。

本原田んぼ大作戦！～夢の大福プロジェクト～

上田市立本原小 5学年

1 本原田んぼでの活動

月日	内容	子どもたちの感想
5月19日	代かき	<ul style="list-style-type: none"> • 石がごつごつして痛かったけど、平らになった。 • 機械でやった所と同じくらい平らになった。 • 水が抜けにくくなる代かきのことを知らなかった。
5月26日	田植え	<ul style="list-style-type: none"> • 指3本で植えることを初めて知った。 • 今は機械だけれど、昔の人は手でやっていたすごい。 • 手でやったけど時間がかかった。農家の人はすごい。
9月17日	稲刈り	<ul style="list-style-type: none"> • 鎌の使い方をボランティアさんに教えてもらったら、コツがわかってスムーズに刈れた。 • 協力して刈ったり、縛ったり、はざかけをしたりできて、楽しかったけど疲れた。
9月29日	脱穀	<ul style="list-style-type: none"> • もち米が思ったよりもたくさん獲れて、運ぶのも大変だったけど、頑張った成果が出た。 • こんなに手間がかかっていることが分かった。

2 もち米をどうやって食べようか…？～夢の大福プロジェクトへ！～

「おいしく食べたい！」「おいしく食べてほしい！」「感謝の気持ちを伝えたい！」という思いから

①校内で販売する

②給食室に寄付して
給食で出してもらう

③収穫祭で何かを
作って食べてもらう

【収穫祭で何を作ろう…？】

↓
苺大福に決定！！

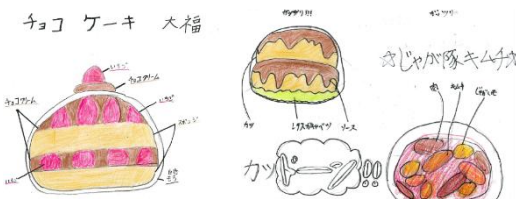
地域の人に作り方を教えてもらおう！お家の方にも食べてもらいたい！！

↓
ところが…

本当はあんこが苦手だ、いちご食べられない、などなどの思いが出てきた…

↓
それなら、自分たちで味も中身も色も形も考えて、オリジナルの大福を作っちゃおう！

夢の大福 プロジェクト始動



他にも生チョコ大福や栗抹茶大福など
アイデアがいっぱい集まった！

「やまざきや」さんに来ていただいて大福作り方教室



- 餅はすぐ硬くなるから手早く作業することが大切。
- 中を先に丸めておくとうまくいきそうだから、オリジナル大福でも頑張りたい。

↓
試行錯誤を重ね、2月の学習発表会でお披露目予定。無事形にできるよう、頑張っています。

ひみつきちをつくろう！

上田市立豊殿小学校 3 学年

校庭のすみに、ひみつきちをつくってもいいですか？

6 月休み時間に校庭で遊んでいたところ「校庭の隅にひみつきちをつくってもいいですか？」の T さんの一言をきっかけに、クラスでひみつきちづくりしようと活動がスタートした。

どのようなきち？

何を使ってつくる？

大きさは？

活動を始めてみると、様々な課題が浮かび上がってきた。子どもと担任との対話の中で、一つの課題について「どうしたらいいかな」と、とことん問いかけるように努めた。

「外に行って見に行ってきたでもいいですか？」とその場に行き行って大きさや雰囲気のイメージをもてるように情報収集

「ひみつきちなんだから見えない方がいい」 みんなで入るんだから大きくないと…」と意見が飛び交う



情報収集をしながら、ひみつきちを構想していたが、クラスみんなのひみつきちへのイメージがバラバラであることがわかってきた。方向性が定まらない様子があったため、絵や写真などを使って共有し合うことにした。インターネットで調べたり、生活経験を想起したりすることを通して、竹や木を使うといいのではないかとクラスみんなのひみつきちへのイメージが膨らんでいった。竹や木を使ってひみつきちをつくろうと活動が進んでいった。

竹なら家の近くにある！

お父さんと 10 本とってきたよ。

全然足りないよ～。

竹はどこにある？

長さはどのくらい？

どのくらい必要？

「壁って何 cm くらいかな？」
「メジャーで測ってみたいじゃない？」算数で学習した活動を生かしながら測る姿。



明確な設計図があるわけではないが、やってみては、課題が生じ、またやってみては、新たな課題が生まれというサイクルをくり返しなが、活動が進んでいった。地域の方へのお願いの電話や、自分たちで竹を切り出したり、運んだりといった作業の経験を経ていく中で「もっと竹が必要！」 次も竹を切りに行こう！」 通学路にある竹があったけど、持ってきてももらえるかな？」というつぶやきが増えていった。こうしたつぶやきから、「自分たちの活動」というモチベーションがだんだんと高まっていっているのが感じられるようになった。

『かいこについて調べよう』（1学期）『かいこを育てよう』（2学期）

上田市立神川小学校 3学年

1 活動の流れ

【4月】

- ・『総合的な学習の時間』が初めての子どもと教師→学年である程度そろった形ある活動の必要性
- ・学年共通で行うには地域と教科学習と関連するものがよいのでは？
- ・虫が好き。元気なエネルギーな子どもたち …『蚕』ならいけるかも！
- ・でも、教師からの提案の「蚕」にはしたくない→昔、神川地区で良質の桑がとれていた情報を get。

【5月】

- ・社会で学年そろって地域探検へ。地図記号を使って学校周辺の様子をまとめた。
- ・今は、家とお店と鉄道と川。あと、北に畑と田んぼがある。
- ・上田市史の昔（約100年前）の地図と比較。
→ 学校のまわり、昔は全部 … くわ畑！！「なんで？」
- ・おうちの人に聞いてみよう。 → 蚕のエサだったんじゃないか。 → 「蚕」ってどんな虫？ 【6

月】

- ・理科モンシロチョウを育てる学習。卵からの誕生、羽化に立ちあう。
教室から何匹ものモンシロチョウが旅立つ。 → また虫を育てたい。
- ・「蚕」について調べようの学習。 おうちの方へのインタビューと授業での調べ学習。
→ 上田市にちなんだ特別な虫であること。ひいおじいさんなど、蚕を仕事にして関わっていた方がたくさんいること。蚕のおかげで、今近くに「しなの鉄道」通っている。…等

【7月】

- ・上田蚕種株式会社について教師より紹介。蚕について、これから育てるか育てないかを話し合う。
→ 「育ててみたい！」

【8月】

- ・8月26日 上田蚕種石井さんに学校へ来ていただき、学習会開催。
- ・450個の蚕の卵をいただき・孵化が始まる。毎日の飼育と観察を行う。



【9月】

- ・蚕が小さいときは全体で管理。ある程度大きくなったところで、個別に菓子箱で一人4匹ずつ飼育。
- ・9月後半、蚕が繭になり始める。トイレットペーパーの芯を「まぶし」がわりに使用。
- ・これから、繭をどうしていきたいのか、各自調べて考える時間をとった。
→ 「糸をとってみたい」「工作をしてみたい」の声が多く出される。

【10月】

- ・蚕の成虫が誕生し始める。休み時間観察する子。指に乗せて廊下を散歩する子。
- ・「桑の葉を食べたい！」の願望を叶えるために、「桑の葉茶」の試飲。
- ・現在、約200個の繭が理科室の冷凍庫で眠っている。



2 成果と課題

- ・他教科の学習と関連させながら子どもの興味や意識の流れを大事にして活動を進めてきた。一人ずつ調べ、自分の蚕を飼育することでそれぞれが地域を知り、蚕に自分なりの関わり方ができた。
- ・課題としては、これから自分たちで育てた蚕の繭をどうするか考え、蚕の繭を使ってそれぞれが納得のいくような3学期の活動を考えていきたい。

五 研究の成果と課題

本年度は教育課程編成が行われなかったこともあり、他校の授業から学んだり、情報交換を行ったりする機会が限られていた。しかし、委員会を通して各校の実践を共有することで、普段知ることの難しい他校の取組や日常の実践に触れることができたことは、大きな成果であった。

実践報告の場では、多様な質問や意見が活発に交わされた。総合的な学習の時間においては、学習をどのように立ち上げるかが共通の課題であるが、各校がどのような過程を経て学習をスタートさせているのかを具体的に知ることができ、今後の実践に生かせる多くの示唆を得ることができた。また、小学校・中学校、さらには学年の異なる教員が集うことで、学びのつながりを意識しながら実践を捉えることができ、将来担任する学年を見据えた指導のアイデアを得る機会ともなった。

さらに、各校の実践には地域の特色が色濃く反映されており、学習材の見つけ方や地域の人々との関わらせ方など、参考となる点が多く見られた。地域の方々が子どもたちの学びに前向きに関わっている事例を知ること、地域と連携することへの心理的なハードルが下がったことも成果の一つである。加えて、他教科と関連付けながら総合的な学習を展開している実践も多く、教科横断的な学びの具体像を知るよい機会となった。

一方で、課題としては、実践の共有の場が委員に限られ、活動内容が実践報告中心にとどまってしまった点が挙げられる。今後は、同好会や他の委員会等との連携を図り、より多くの教員が学び合える場を設定することで、学びを広げていく必要がある。

多様な実践に触れる中で、子どもたちにどのような力を身に付けさせたいのかというねらいを明確にし、その上で地域のよさとどのようにつなげていくかを意識しながら学びを構成していくことの重要性を再確認した。今後も、子どもと共に教員自身も学び続け、楽しみながら総合的な学習の時間の充実を図っていきたい。